

国語

1年	現代の国語
1年	言語文化
2年	論理国語
2年	古典探究
3年	国語表現
3年	論理国語
3年	古典探究
3年	国語演習
3年	受験国語
3年	教養国語

2025年度 シラバス						
対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 特進コースI&Sクラス		国語	現代の国語	必修	2単位	渡邊智之
教科書	数研出版「高等学校 現代の国語」		副教材	浜島書店「論読現代文1」「新訂版 常用国語便覧」、第一学習社「新版漢字マイスター頻出漢字熟語3000」		
授業のねらい		・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。・実社会で必要となる語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・主張と論拠、個別の情報と一般化された情報との関係について理解する。				
学習上の留意点		・難関大学、日東駒専合格を見据えた内容を展開していく。 ・中学校で習得した内容にも適宜触れながら学んでいく。 ・宿題を適宜課す。取り組みがないと授業に支障が出るため、必ず行うこと。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	期 末	評論「論理的ということ」		・文章の構成や展開を確かめ、筆者の主張を的確に読み取る。		
		評論「私の中にある生命の歴史」				
		評論「水の東西」		・日本と西洋の比較を通して文化の違いを知り、両者の特徴を考える。		
		評論『『攻撃』と『共存』』		・類人猿における社会の特徴を把握し、私たち人間が見習うべきことについて考える。		
		※適宜 漢字小スト(通年)		※文章の読み方など中学校の復習も行う。		
		※適宜 副教材による演習(通年)		(文章トレーニング1～5)		
2 学 期	中 間	評論『『大人』になるための条件』		・生物学的ではなくて、人間として「大人になる」とはどういうことか理解する。		
		評論『『わらしべ長者』の経済学』		・身近な昔話に対する一般的な理解と対比させて、筆者の主張を理解する。		
	期 末	評論「コインは円形か」		・筆者の主張と具体例から、「レトリック」の意義を理解する。		
		評論「ものとことば」		・ことばの構造やしくみの違いと、認識される対象の変化について読み取る。		
3 学 期	学 年 末	評論「人と自然の共生とはどういうことか」		・「文化的共生」という人と自然の関係について理解する。また、身近な自然について考える。		
		評論「他者を理解するということ」		・「他者」と「他人」の違いについて知る。		
		※適宜 iPadを活用(通年)		・「理解する」ことについて、筆者の主張をまとめる。		

2025年度 シラバス						
対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 特進コースI&Sクラス		国語	言語文化	必修	2単位	渡邊智之
教科書	数研出版「新編 言語文化」		副教材	いっずな書店「key&pointみるみる覚える古文単語 300+敬語30 三訂版」啓隆社「新修古典文法 二訂版」「新修古典文法 二訂版ドリル編」浜島書店「新訂版 常用国語便覧」		
授業のねらい		・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。・日本の言語文化の特質や、日本の文化と外国の文化との関係について理解する。・古典(古文・漢文)に親しみ、歴史的文化的背景を学び、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。				
学習上の留意点		・難関大学、日東駒専合格を見据えた内容を展開していく。 ・中学校で習得した内容にも適宜触れながら学んでいく。 ・宿題を適宜課す。取り組みがないと授業に支障が出るため、必ず行うこと。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	期末	有名作品の冒頭 古文「児のそら寝」 古典文法(動詞) 小説「羅生門」 古典文法(形容詞、形容動詞) 古文「ある人、弓射ることを習ふに」 ※適宜 単語小スト(通年) ※適宜 模試対策(通年)		・音読を通じて古文に慣れ、登場人物の行動や心情を理解する。※歴史的仮名遣いなど中学校の復習も行う。 ・作品に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して味わい、主題について考える。 ・随筆を学び、ものの見方や感じ方・考え方を豊かにする。		
		2 学 期	中間	古文「芥川」「筒井筒」 古今和歌集、新古今和歌集 古典文法(助動詞)		・主語を正確に把握し、現代語訳をして内容を理解する。 ・和歌の果たす役割や効果について理解し、物語を味わう。 ・助動詞の活用や意味を理解する。
3 学 期	学年末			漢文「助長」「漁夫の利」 「虎の威を借る狐」 漢詩 古文「木曾の最期」 ※適宜 iPadを活用(通年)		・書き下し文や現代語訳を行い、内容を理解する。 ・漢詩の決まりや特徴を理解し、作品を味わう。 ・和漢混交文や音便が多用された文章になれ、内容を理解する。

2025年度 シラバス						
対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 進学コースAクラス		国語	現代の国語	必修	2単位	河野秀夫・鬼嶋知見 久次宏太郎
教科書	数研出版「新編 現代の国語」		副教材等	いっずな書店「意味で覚えて漢字を知る 漢トレ漢字検定⑤級～②級」浜島書店「新訂版 常用国語便覧」		
授業のねらい		(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。				
学習上の留意点		予習3:復習7の割合で家庭学習に取り組むこと。予習は語彙学習を中心に行うこと。復習は授業内容を自分で復元できるようにすること。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	期末	コラム 評論の読み方 評論「目指す世界の地図を作る」 文章トレーニング 文章構造を理解する 評論「時間とは何か」 コラム 指示語・「対比」に注意 評論「水の東西」 評論「世間話はなぜするか」 「写真を文章で説明する」		・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解する。 ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解する。 ・説明や表現の仕方を理解する。		
		2 学 期	中間 ----- 期末	評論「里山物語」 「非言語コミュニケーション」 評論「語感トレーニング」 「広告コピーを書く」		・対比について理解し、文章を読み進められるようにする。 ・非言語コミュニケーションを通じ、「言語」とは何か考える。 ・話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができるようにする。 ・自分の考えを相手に伝えられるようにする。
評論「コインは円形か」 ズームアップ 外来語 評論「科学と非科学」 文章トレーニング 要約する				・各々の言葉の働きの違いを理解し、適切に運用する。 ・書き手の考えを比較し、自分とは違う他者の考えを受け入れつつ、他者の考えを正確に理解する。 ・他者の考えを自分なりにまとめ直しができるようにする。		
3 学 期	学年末	評論『「差」という情報」 評論「わらしべ長者の経済学」 文章トレーニング 比較する 文章トレーニング 意見文を書く		・根拠を見つけ出し、それを表現できるようにする。 ・経済学への理解を通じ、未知の分野の語彙を増やす。 ・比較によって仮説を立てる。類推によって新しい視点を得る。 ・具体的で説得力のある文章で意見を述べる。		

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 進学コースAクラス		国語	言語文化	必修	2単位	此木淳一・佐藤祐紀 相田高宏
教科書	数研出版「新編 言語文化」		副教材等	いっずな書店「key&pointみるみる覚える古文単語 300+敬語30 三訂版」啓隆社「新修古典文法 二訂版」「新修古典文法 二訂版ドリル編」浜島書店「新訂版 常用国語便覧」		
授業のねらい		・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深める。 ・論理的に考える力や深く共感・想像する力を伸ばし他者との関わりの中で伝え合う力を高める。 ・言葉がもつ価値への認識を深めると共に言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学習上の留意点		・基本的な読み書きから正しい漢字の書き方など学習の根幹であることを理解する。 ・授業態度、提出状況、臨む姿勢を自らが高める意識を持つこと。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心として小テストや提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	期末	漢文の基礎 格言 「虎の威を借る」「漁夫の利」 小説「羅生門」		・訓読の基本を理解し、書き下し文のきまりを身に付ける。 ・日本に根付いている言葉の理解を深める。 ・作品の舞台設定を読み取り主人公の人物像を把握する。 ・文章の構成や展開を把握し心情の変化を読み取る。 ・下人の心理の変化を捉え作品の主題について考察する。		
		2 学 期	中間 ----- 期末	古文「児のそら寝」(宇治拾遺物語) 漢詩「江雪」「涼州詞」 「送元二使安西」	・古文を読むための基礎知識を理解する。 ・用言の活用について理解する。 漢詩の音韻を味わい、表現の豊かさに触れる。 漢文特有の句法を理解し、解釈する。	
古文「芥川」筒井筒「(伊勢物語)」 いろはうたと有名古典冒頭①	・歌物語の特徴と『伊勢物語』の教材について理解する。 ・在原業平の人物像について本文を踏まえて理解する。 ・単語や文法に注意して的確に読み取り現代語訳を行う。					
3 学 期	学年末	古文「木曾の最期」 いろはうたと有名古典冒頭②		・音読を通して古文に慣れ人物の行動や心情を理解する。 ・敬語・係り結び・助動詞の活用について理解する。 ・単語や文法に注意して的確に読み取り現代語訳を行う。		

2025年度 シラバス						
対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースI&Sクラス(1クラス)		国語	論理国語	必修	2単位	川口ひろみ
教科書	大修館書店「論理国語」		副教材等	浜島書店「論読現代文2」「常用漢字2×3」「新訂版 常用国語便覧」いっずな書店「大学入試国語頻出問題1200 五訂版」		
授業のねらい		・「現代が抱えるテーマと問題」が提示された文章を読解し、その問いに向き合い、考える。・演習形式の授業を通して問題を解くことに慣れ、入試に対応できる力を養う。				
学習上の留意点		・主体的に読解し、テーマや問題に対する答えを考える。・漢字や語句の意味などの基本的な事柄については、繰り返しの学習で定着させる。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物などから総合的に評価する。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	期末	・世界・言葉・私 「対話の精神」 ・芸術と文化 「ミロのヴィーナス」口 ----- ・共同体のいま 「コミュニティから見た日本」 ・科学の可能性 「自己をモデル化する知能」		・筆者の主張から、現代が抱えるテーマや問題について考える。 ・自ら思考したことや意見について、適切に表現する。 ・副教材などを用いて、演習を行う。 ----- ・模試の対策を行う。 ・漢字や語彙を習得する。 ・夏期休業中の課題あり ※上記は学期や年度を通して行う。		
		・日本語の多様性 「『方言コスプレ』現象」 ・思考の枠組み 「スキーマと記憶」 ----- 「絵を見る技術」 ・社会の原点 「社会的実在としての言語・法・貨幣」		・筆者の主張から、現代が抱えるテーマや問題について考える。 ・自ら思考したことや意見について、適切に表現する。 ・副教材などを用いて、演習を行う。 ----- ・模試の対策を行う。 ・漢字や語彙を習得する。 ・冬期休業中の課題あり ※上記は学期や年度を通して行う。		
3 学 期	学年末	・グローバル化の先へ 「心に『海』を持って」 「世界は、いま—『多文化世界』の構築」		※1・2学期と同様 ※年度を通じて、多読を実践する。また、テーマや問いに対する意見や思考内容を明文化する。		

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースI&Sクラス(S文系)		国語	論理国語	必修	3単位	植木智
教科書	大修館書店「論理国語」		副教材等	浜島書店「論読現代文2」「新訂版 常用国語便覧」いっずな書店「大学入試国語頻出問題1200五訂版」		
授業のねらい		・「現代が抱えるテーマと問題」が提示された文章を読解し、その問いに向き合い、考える。・演習形式の授業を通して問題を解くことに慣れ、入試に対応できる力を養う。				
学習上の留意点		・主体的に読解し、テーマや問題に対する答えを考える。・漢字や語句の意味などの基本的な事柄については、繰り返しの学習で定着させる。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物などから総合的に評価する。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	期 末	「対話の精神」		・筆者の主張から、現代が抱えるテーマや問題について考える。		
		「ミロのヴィーナス」		・自ら思考したことや意見について、適切に表現する。		
		「コミュニティから見た日本」		・副教材などを用いて、演習を行う。		
		「自己をモデル化する知能」		・模試の対策を行う。		
2 学 期	中 間	「『方言コスプレ』現象」		・筆者の主張から、現代が抱えるテーマや問題について考える。		
		「スキーマと記憶」		・自ら思考したことや意見について、適切に表現する。		
	期 末	「絵を見る技術」		・副教材などを用いて、演習を行う。		
		「社会的実在としての言語・法・貨幣」		・模試の対策を行う。		
3 学 期	学 年 末	「心に『海』を持って」		・漢字や語彙を習得する。		
		「世界は、いま—『多文化世界』の構築」		・冬期休業中の課題あり		
				※上記は学期や年度を通して行う。		
				※1・2学期と同様		
				※年度を通じて、多読を実践する。また、テーマや問いに対する意見や思考内容を明文化する。		

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースI&Sクラス(S理系)		国語	論理国語	必修	2単位	小池功一郎
教科書	大修館書店「論理国語」		副教材等	浜島書店「論読現代文2」「新訂版 常用国語便覧」 いっずな書店「大学入試国語頻出問題1200 五訂版」		
授業のねらい		・「現代が抱えるテーマと問題」が提示された文章を読解し、その問いに向き合い、考える。・演習形式の授業を通して問題を解くことに慣れ、入試に対応できる力を養う。 ・理系分野の文章に多く触れ、専門的な知識や科学的・論理的思考力を養う。				
学習上の留意点		・主体的に読解し、テーマや問題に対する答えを考える。・漢字や語句の意味などの基本的な事柄については、繰り返しの学習で定着させる。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物などから総合的に評価する。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	期末	「対話の精神」		・筆者の主張から、現代が抱えるテーマや問題について考える。		
		「余白の美学」		・自ら思考したことや意見について、適切に表現する。		
		「コミュニティから見た日本」		・副教材などを用いて、演習を行う。		
		「自己をモデル化する知能」		・模試の対策を適宜行う。 ・漢字や語彙・現代文用語などの基礎知識を習得する。 ・夏期休業中の課題あり ※上記は学期や年度を通して行う。		
2 学 期	中間	「人工知能の可能性と畏」		・筆者の主張から、現代が抱えるテーマや問題について考える。		
		「スキーマと記憶」		・自ら思考したことや意見について、適切に表現する。		
	期末	「絵を見る技術」		・副教材などを用いて、演習を行う。		
		「社会的実在としての言語・法・貨幣」		・模試の対策を適宜行う。 ・漢字や語彙・現代文用語などの基礎知識を習得する。 ・冬期休業中の課題あり ※上記は学期や年度を通して行う。		
3 学 期	学年末	「「方言コスプレ」の現象」		※1・2学期と同様		
		「世界は、いま—『多文化世界』の構築」		※年度を通じて、多読を実践し論理的な思考を養成する。 また、テーマや問いに対する意見や思考内容を明文化する。		

2025年度 シラバス						
対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コースAクラス		国語	論理国語	必修	2単位	鬼嶋知見・武井智巳・土屋崇子
教科書	大修館書店「論理国語」		副教材等	浜島書店「新訂版 常用国語便覧」 桐原書店「書いて覚えて実践する高校生の語彙と漢字(ゴイカン)」		
授業のねらい		教材を通して、筆者の主張を正確に読み取る「内容把握」のほか、より論理的に文章を考察したり、テーマに関する「問い」について自ら考え、表現したりする。「読むこと」と「書くこと」を往還しながら、自分の考えを深める。				
学習上の留意点		言語知識を増やすとともに、各テーマにおける問いを自分事として捉え考え、表現する。授業への取り組みは主体的なものでなくてはならない。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	期末	「世界を広げる「批評」の言葉」 「対話の精神」 「ミロのヴィーナス」 「家族化するペット」		・筆者が定義することを的確に押さえ、主張をとらえる。 ・対比や比喩による表現を手掛かりに、論の展開をとらえる。 ・現代日本における問題について自分の考えを持つ。 ・文化や美意識について自分の考えを持つ。 ・統計資料や事例と筆者の主張の関係をとらえる。		
		2 学 期	中間	「自己をモデル化する知能」 「人工知能の可能性と畏」 自分の立場を明確にして書く		・論理の展開や具体例をもとに、筆者の主張をとらえる。 ・科学技術の進歩と人間にかかわりについて考える。 ・主張と根拠をとらえ、的確に要約する。 ・賛否などの立場を明確にし、その根拠を示す。
3 学 期	学年末			「敬語への自覚、他者への自覚」 「デジタル地図から見える世界」 情報を集めて分類する		・論理の展開や対比をもとに、筆者の主張をとらえる。 ・言葉と社会の関係や社会の喧嘩について、考えを深める。 ・情報源を適切に記録し、集めた情報を整理・分類する。
		3 学 期	学年末	「社会的実在としての言語・法・貨幣」 「心に『海を』もって」 「世界は、いまー『多文化世界』の構築」 意見を交流する		・具体的エピソード、学説の紹介の意図を理解し、論の展開を手がかりに、筆者の主張を読み取る。 ・小見出しごとの要旨を理解したり、具体例や対比を的確にとらえたりしながら、筆者の主張をつかむ。 ・社会のさまざまな事柄に対する考えを表現し、 他者との交流(意見交換、指摘)を通して、掘り下げる。

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースI&Sクラス(1クラス)		国語	古典探究	必修	2単位	川口ひろみ
教科書	数研出版「高等学校 古典探究」		副教材等	いっずな書店「みるみる覚える古文単語300＋敬語30 三訂版」啓隆社「新修古典文法 二訂版」浜島書店「読み解く古文2」		
授業のねらい		・古典としての古文と漢文を読解する能力を養う。・古典に親しむことで、ものの見方や考え方を広げる。・日本文化について、古代と現代とのつながりを考える(古典常識も含む)。				
学習上の留意点		・主体的に読解し、テーマや問題に対する答えを考える。・漢字や語句の意味などの基本的な事柄については、繰り返しの学習で定着させる。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物などから総合的に評価する。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	期末	・古文「大江山」(十訓抄) ・古文「初冠」(伊勢物語) ・古文「をばすて山」(大和物語) ----- ・古文「鳥飼の院」(大和物語) ・漢文「漱石枕流」(世説新語) ・漢文「画竜点睛」(歴代名画記)		・説話を読み、古文のおもしろさに触れる。 ・歌物語を通じ、その時代背景や和歌の技法を理解しながらその鑑賞につなげる。 ・文法事項の知識の定着を目指す。 ----- ・漢文に親しみ、基本的な句形を知る。		
		・古文「すさまじきもの」(枕草子) ・古文「東路の道の果て」(更級日記) ・漢詩 ----- ・古文「光源氏誕生」(源氏物語) ・古文「小柴垣のもと」(方丈記)		・古文単語や文法事項(助動詞など)を確認して、内容を理解する。 ・漢詩の形式や押韻の決まりを知る。 ----- ・古典文学の最高傑作に触れ、その味わいを楽しむ。 ・時代背景や人物関係をとらえたうえで人の心の機微を読む。 ・助動詞や敬語の理解を深める。		
3 学 期	学年末	・古文「花は盛りに」(徒然草) ・古文「兼好法師が詞のあげつらひ」(玉勝間) ・漢文「四面楚歌」(史記)		・二種の文章を比べ読み、その味わいを知る。 ・文法事項や古文常識の定着をはかる。 ・句形や前置詞の確認をしながら内容を理解する。		

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースI&Sクラス(S文系)		国語	古典探究	必修	3単位	植木智
教科書	数研出版「高等学校 古典探究」		副教材等	啓隆社「新修古典文法 二訂版」いいずな書店「Key&pointみるみる覚える古文単語300＋敬語30 四訂版」浜島書店「常用国語便覧」「読み解く古文2」		
授業のねらい		・古典としての古文と漢文を読解する能力を養う。・古典に親しむことで、ものの見方や考え方を広げる。・日本文化について、古代と現代とのつながりを考える(古典常識も含む)。				
学習上の留意点		・主体的に読解し、テーマや問題に対する答えを考える。・漢字や語句の意味などの基本的な事柄については、繰り返しの学習で定着させる。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物などから総合的に評価する。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	期末	古文「大江山」(十訓抄) 古文「初冠」「渚の院」(伊勢物語) 漢文「漱石沈流」 古文「東路の道の果て」(更級日記) ・漢詩		・古文単語や文法事項(助動詞など)を確認して、内容を理解する。 ・和歌の修辞法を学び、詠み込まれた思いを味わう。 ・書き下し文を作成し、内容を理解する。 ・敬語の種類と敬意の対象を理解する。 ・漢詩の決まり(押韻など)を学び、背景も含めて作品を味わう。 ※上記と模試対策を、学期や年度を通して行う。		
		2 学 期	中間 期末	古文「三船の才」「南の院の競射」(大鏡) 漢文「四面楚歌」(史記) 古文「光源氏誕生」(源氏物語) 漢文「夢為胡蝶」(莊子)		・古文単語や文法事項(助動詞など)を確認して、内容を理解する。 ・和歌の修辞法を学び、詠み込まれた思いを味わう。 ・書き下し文を作成し、内容を理解する。 ・敬語の種類と敬意の対象を理解する。 ・作品の寓意性や、そこに込められた思いを読み取る。 ※上記は学期や年度を通して行う。
3 学 期	学年末			古文「二月つごもりごろに」(枕草子) 漢文「桃花源記」(陶淵明集)		※1・2学期と同様 ・歌論としての意義や人物評を読み取る。

2025年度 シラバス						
対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コースAクラス(文系のみ)		国語	古典探究	必修	2単位	保坂征範・小池功一郎
教科書	数研出版「高等学校 古典探究」		副教材等	啓隆社「新修古典文法 二訂版」 いっずな書店「Key&pointみるみる覚える古文単語 300＋敬語30 三訂版」 浜島書店「新訂版 常用国語 便覧」		
授業のねらい		古典作品には、現代の日本語とは異なる文法や語彙が多く使用されている。そのため、古文や漢文の文法・語彙の知識を活用し、文法や表現、言葉の意味や使い方を正確に理解することをねらいとする。				
学習上の留意点		授業用ノートをしっかり作成し、復習に重点を置き知識の定着を図ること。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、古文単語テストや提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	期末	古文「大江山」(十訓抄)		・助動詞について学ぶ。 ・単語や文法事項に注意して、正確に読み取り、現代語訳を行う。 ・動詞について学ぶ。 ・作品中の文法や表現、言葉の意味や使い方を解釈し、全体像をつかみとる		
		古文「初冠」(伊勢物語)				
		古文「をばすて山」(大和物語)				
		古文「渚の院」(伊勢物語)				
2 学 期	中間	古文「あだし野の露」(徒然草)		・古文文法。内容の読解の確認。 ・漢文句法の確認。内容の読解の確認。 ・漢文の基本的な文法や語彙を学習する。		
		漢文「漱石枕流」				
	期末	漢文「画竜点睛」		・自ら書き下し文や現代語訳の作成を行い、文章の内容を的確に読み取る。 ・古典作品の文化的背景を理解する。 ・登場人物の整理、物語背景を理解しつつ、文章全体を把握する。		
		古文「三船の才」(大鏡)				
3 学 期	学年末	古文「光源氏誕生」(源氏物語)		・古典文学の最高峰とされる作品の冒頭を鑑賞する。 ・古文単語や文法事項(助動詞など)を確認して、内容を理解する。 ・代表的な漢詩を取り上げて鑑賞する。 ・詩人の生涯・背景、詩のテーマ・メッセージを理解する。 ・表現方法・技法の習得、韻律・格律の守り方を学ぶ。		
		漢文「鹿柴」「飲酒」「山中対酌」 「旅夜書懷」				

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースI&Sクラス(1クラス)		国語	国語表現	必修	2単位	武井 智巳
教科書	大修館「国語表現」		副教材等	特になし(適宜プリント等を使用)		
授業のねらい		・国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める ・思考力や想像力を伸ばし、言語感覚の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習上の留意点		・課題は期限内に必ず提出すること。				
評価方法		授業内テストを中心とし、発表や小テストや創作物・提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	書いて伝える 小論文・レポート入門		自己表現の手段として、正しい言葉遣いや文法事項を学ぶ。 小論文やレポートの形式を学び、論理的な構成によって読み手が理解しやすい文章を作成する。		
	期末	自己PRと面接 メディアを駆使する		大学入試を意識し、志望理由書や面接の対策となる自己分析を行う。また、それをもとに面接を行う。 大学入試における情報収集やインターネット出願を踏まえ、PCなどのメディアを活用する。		
2 学 期	中間	声とコミュニケーション 会話・議論・発表		1学期に行った自己分析をもとに、発声の仕方や抑揚などを学ぶことで、自己表現に慣れる。 課題解決能力を向上させるとともに、スピーチ能力の向上も図る。		
	期末	表現を楽しむ 文章表現		言葉や詩歌の面白さを知り、豊かな表現力を身につける。 自己の考えを的確にかつ説得力をもって相手に伝えることのできる力を身につける。		
3 学 期	学年末			※1クラスなので、適宜英語を用いた活動も織り交ぜる。 ※通年で語彙力の向上を図っていく。		

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースI&Sクラス(1クラス)		国語	論理国語	必修	3単位	鬼嶋知見
教科書	大修館書店「論理国語」		副教材等	浜島書店「論読現代文3」 いいずな書店「大学入試国語頻出問題1200 四訂版」 浜島書店「新訂版 常用国語便覧」		
授業のねらい		・評論では、筆者の主張や文章の構成を理解する。 ・語彙力の強化や知識事項の理解も深めながら入試に通用する実戦力を高める。				
学習上の留意点		・基本的な事柄(漢字・語彙)については、繰り返し学習して定着を図る。 ・演習問題は、家庭学習などで事前に取り組んだ上で授業に参加する。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	評論「『贈り物』としてのノブレス・オブリージュ」 評論「消費されるスポーツ」 評論「共感覚と比喻」		・筆者のものの見方・考え方・感じ方を深くとらえ、味わう。 ・論旨を捉え、要約する。 ※通年で、模擬試験や入学試験の対策をしていく。		
	期末	評論「猫は後悔するか」 評論「『である』ことと『する』こと」 問題演習(模試・入試)		・筆者のものの見方・考え方・感じ方を深くとらえ、味わう。 ・論旨を捉え、要約する。		
2 学 期	期末	評論「生物多様性の恩恵」 評論「言語と他者」 問題演習(記述・マーク)		・筆者のものの見方・考え方・感じ方を深くとらえ、味わう。 ・論旨を捉え、要約する。 ・問題演習を重ね、迅速な文章理解のできる力を養う。		
		評論「リスク社会としての現代」 問題演習(記述・マーク)		・筆者の、ものの見方・考え方・感じ方を深くとらえ、味わう。 ・論旨を捉え、要約する。 ・問題演習を重ね、入試に必要な力を身につける。		
3 学 期	学年末					

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースI&Sクラス(Sクラス)		国語	論理国語	必修	3単位	植木智・川口ひろみ
教科書	大修館書店「論理国語」		副教材等	いっずな書店「国語頻出問題1200 四訂版」 浜島書店「論読現代文3」		
授業のねらい		・評論では、筆者の主張や文章の構成を理解する。・小説では、登場人物の心情や思想を読み解く。・以上に加え、語彙力の強化や知識事項の理解も深めながら入試に通用する実戦力を高める。				
学習上の留意点		・基本的な事柄(漢字・語彙)については、繰り返し学習して定着を図る。 ・演習問題は、家庭学習などで事前に取り組んだ上で授業に参加する。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	評論「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ 評論「ネットワーク上のコミュニケーション」		・作者のものの見方・考え方・感じ方をふまえ、自己と他者について考える。 ・論旨を捉え、要約する。 ※通年で、模擬試験や入学試験の対策をしていく。		
	期末	評論「猫は後悔するか」 評論「共感覚と比喻」		・論理の展開を的確に読み取る。 ・言語感覚を豊かにし、日常言語の客観的分析力を養う。 ・横書きの形式に慣れる。		
2 学 期	期末	評論「日常に走る亀裂」 評論「生物多様性の恩恵」 問題演習(記述・マーク)		・作者の、ものの見方・考え方・感じ方を深くとらえ、味わう。 ・具体例との関係に注意しながら筆者の主張をとらえる。 ・問題演習を重ね、迅速な文章理解のできる力を養う。		
		評論「言語と他者」 問題演習(記述・マーク)		・言語と世界・他者の関係について考えを深める。 ・論旨を捉え、要約する。 ・問題演習を重ね、入試に必要な力を身につける。		
3 学 期	学年末					

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス		国語	論理国語	必修	3単位	藤井千栄子・佐藤祐紀 相田高宏
教科書	大修館書店「論理国語」		副教材等	いっずな書店「現代文単語 げんたん 改訂版」浜島書店「新訂版 常用国語便覧」「常用漢字の2×3」		
授業のねらい		論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ICTを駆使した予習・授業・復習の循環の中で、自己を確立させる。				
学習上の留意点		言語知識を増やすとともに、各テーマにおける問いを自分事として捉え考え、表現する。 授業への取り組みは主体的なものでなくてはならない。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	「ネットワーク上のコミュニケーション」		対面と文面のみのコミュニケーションの違いによる諸問題を理解させる。 非言語情報から伝達される情報への理解を深める。		
	期末	「ポスト真実時代のジャーナリズムの役割」 「人を指す言葉——自称詞・対称詞・他称詞」		根拠のある論理と感情論の違いを明確化させる。 欧米と日本の人称代名詞の違いから、関係性の捉え方の違いを理解させる。		
2 学 期	期末	「多数決を疑う」		情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深めさせる。		
		「日常に走る亀裂」 「地球システムの中の人間」		人間の生物学的歴史と文明の歴史を学び、そこから人間存在そのものを理解させる。		
3 学 期	学年末					

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースI&Sクラス(S文系)		国語	古典探究	必修	3単位	植木智・川口ひろみ
教科書	数研出版「高等学校 古典探究」		副教材等	いいずな書店「key & pointみるみる覚える古文単語300＋敬語30」京都書房(啓隆社)「新修古典文法 二訂版」 いいずな書店「国語頻出問題1200 四訂版」		
授業のねらい		古典作品には、現代の日本語とは異なる文法や語彙が多く使用されている。そのため、古文や漢文の文法・語彙の知識を活用し、文法や表現、言葉の意味や使い方を正確に理解することをねらいとする。				
学習上の留意点		・古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
観点別評価		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
学習計画	考査	単元	学習目標			
1 学 期	中間	古文「宮に初めて参りたるころ」(枕草子) 古文「鷹」(蜻蛉日記) 古文「鎌倉への出立」(十六夜日記)	・随筆や日記文学を通して、当時の日本人の生活のあり方や考えを知る。 ・和歌の鑑賞や敬語の知識の定着を目指す。 ※通年で、模擬試験や入学試験の対策をしていく。			
	期末	古文「紫の上の死」(源氏物語) 古文「清少納言と紫式部」(無名草子)	・家族のあり方や死を見つめ、生きることの価値を理解する。 ・源氏物語が後世の人にとってどう読まれたかを知り、日本人としてのアイデンティティについて考える。			
2 学 期	期末	漢文「長恨歌」(白氏文集) 漢文「石壕吏」(杜工部集) 文学史①(上代・中古)	・『白氏文集』が古典文学に与えた影響について考える。 ・入試問題にも触れ、実戦力を養う。			
		漢文「首陽山に餓死す」(史記) 文学史②(中世以降)	・伯夷・叔斉の歌から、運命の捉え方を考える。 ・心情や行動に触れながら人間の生き方を考える。 ・入試問題にも触れ、実戦力を養う。			
3 学 期	学年末					

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(文系のみ)		国語	古典探究	必修	2単位	保坂征範・藤井千栄子 相田高宏
教科書	数研出版「高等学校 古典探究」		副教材等	京都書房(啓隆社)「新修古典文法 二訂版」 いっずな書店「key&Pointみるみる覚える古文単語300 +敬語30 四訂版」 浜島書店「新訂版 常用国語便 覧」		
授業のねらい		古典作品には、現代の日本語とは異なる文法や語彙が多く使用されている。そのため、古文や漢文の文法・語彙の知識を活用し、文法や表現、言葉の意味や使い方を正確に理解することをねらいとする。				
学習上の留意点		授業用ノートをしっかり作成し、復習に重点を置き知識の定着を図ること。				
評価方法		授業用ノートをしっかり作成し、復習に重点を置き知識の定着を図ること。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	中間	古文「二月つごもりごろに」(枕草子) 古文「父の離京」(蜻蛉日記)		・古文文法や語彙を確認し、さらに学習する。 ・単語や文法事項に注意して、正確に読み取り、現代語訳を行う。 ・作者の心情について、和歌の内容や文章中の表現をふまえて理解する。		
	期末	古文「水鳥の足」(紫式部日記) 古文「同僚女房評」(紫式部日記)		・敬語、助動詞、助詞について学ぶ。 ・作品中の文法や表現、言葉の意味や使い方を解釈し、全体像をつかみとる ・作者の紫式部と作品中に出てくる有名な古典文学の作者について理解を深める		
2 学 期	期末	古文「薫る香に」(和泉式部日記) 古文「鎌倉への出立」(十六夜日記)		・平安時代の代表的な女流日記文学を読み味わい、その特色を理解する。 ・自身の日記を三人称で書く理由について整理させる。 ・本文の表現から作品の特徴を捉える。		
		古文「車争ひ」(源氏物語) 漢文「鴻門之会」(史記)		・六条御息所の心情を、その立場や周囲の状況を考え合わせて理解する。 ・当時の習俗や文化的環境について理解を深める。 ・漢文句法の確認、習得。 ・自ら書き下し文や現代語訳の作成を行い、文章の内容を的確に読み取る。		
3 学 期	学年末					

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースI&Sクラス(1クラス)		国語	国語演習	必修	2単位	保坂征範
教科書	特になし		副教材等	いっずな書店「大学入試国語頻出問題1200四訂版」		
授業のねらい		問題演習を重ね、限られた時間の中で正答を導き出す。				
学習上の留意点		・基本的な事柄(漢字・語彙・単語・文法)については、繰り返し学習して定着を図る。				
評価方法		定期考査や授業内テストを中心とし、小テストや提出物などから総合的に評価する。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	評論(論理的文章) 小説(文学的文章)		・共通テストや私大入試問題を意識した演習を行う。 ・筆者の主張や文章の構成を理解する。 ・登場人物の心情や思想を理解する。 ・漢字や語彙の定着を図る。		
	期末	古文 漢文		・単語や文法事項(助動詞・敬語・識別)を押さえる。 ・人物像を読み取り、行動や心情を考える。 ・文法事項(再読文字・句形)を理解し、文章の内容を読み取る。		
2 学 期	中間	評論(論理的文章) 小説(文学的文章)		・上記の内容を、学期・年間を通じて演習する。 ・模試の過去問(現代文)を中心に扱う。		
	期末	古文 漢文		・入試の過去問(古文)を中心に扱う。 ・入試の過去問(漢文)を中心に扱う。		
3 学 期	学年末					

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースI&Sクラス(S文系)		国語	国語演習	必修	2単位	植木智
教科書	特になし		副教材等	浜島書店「論読現代文3」 これまで授業で使用してきた現代文・古典での参考図書		
授業のねらい		多くのジャンルにトライし、読解の方法を定着させ、限られた時間で問題を解く力を養成する				
学習上の留意点		・基本的な学習(漢字・語彙・文法)は日々行い、初めて見る文章に対応できるようにすること ・家庭学習で解答してきた状態で解説を行う場合は事前に課題を終えておくこと				
評価方法		授業内テストを中心に、提出物や発言などを踏まえて総合的に判断する。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	中間	通年で評論・小説・古文・漢文の演習 評論		・重要なワードからどういった趣旨の話に結び付いてくるか(テーマとして理解する)を理解して、それらに付随した語句の理解を深め、文章の理解力及びスピードを高める。		
	期末	小説		・時代によって理解しておかなければならない文化や歴史を学び、登場人物の心情を理解できるようにする。幅広く語句の理解を進め、評論にも生きるようにする。		
2 学 期	中間	古文		・基本的な文法から発展し、初見の文章にも応用できるようにする。また、頻出する単語の理解を定着させ、助動詞では接続から判別した後に現代語訳に結び付けるようにする。		
	期末	漢文		・基本的な訓読は勿論のこと、語句の理解と句形を押さえる。以上の事を反復し、最終的には読む速度を上げていく。 ※それぞれの分野を模試や入試の過去問題を利用して演習する。		
3 学 期	学年末					

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス		国語	国語演習	必修	2単位	武井智巳・河野秀夫 土屋崇子・此木淳一
教科書	特になし		副教材等	浜島書店「LT現代文3」いっずな書店「思考力・判断力・表現力へのアプローチ」		
授業のねらい		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。				
学習上の留意点		自分の考えを明確に持つこと。添削のため、課題の期限は厳守すること。				
評価方法		授業内テストを中心とし、小テストや提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	中間	「論読現代文」大問1～5 げんたん第一章 自己表現課題		論理的に考える力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 自己を表現する方法を学び、文章で示すことができるようにする。		
	期末	「論読現代文」大問6～10 げんたん第二章 話し言葉・書き言葉・敬語の演習		話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けることができるようにする。		
2 学 期	中間	「論読現代文」大問11～15 げんたん第三章 自己表現課題		自分の主張の合理性が 伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫させる。 大学の志望理由や高校生活などについて、他者に正確に伝わるように文章を書いたり、スピーチをしたりすることができるようにする。		
	期末	「論読現代文」大問16～20 手紙文・時候の挨拶等		読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができるようにする。		
3 学 期	学年末					

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(選択者)		国語	受験国語	選択	2単位	此木淳一
教科書	特になし		副教材	特になし(適宜プリントを使用する。)		
授業のねらい		・大学入試で求められる国語力の養成を通して本番に向けた実践力を身に付ける。				
学習上の留意点		・一般選抜／総合型選抜／学校推薦型選抜で問われる国語基礎力(読解力・語彙力・古典文法等)を繰り返し学習し、定着を図る。				
評価方法		授業内テストを中心として小テストや提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	中間	評論文の読解 小説の読解 現代文の基礎知識		・大学入試で求められる論理的思考力を養成する。 ・小説の基本的読解法を身に付ける。 ・漢字や語彙など国語の基礎学力を身に付ける。		
	期末	総合型選抜入試対策		・大東亜帝国等の総合型選抜の過去問を解きながら実践力を付ける。		
2 学 期	中間	総合型選抜入試対策		・大東亜帝国等の総合型選抜の過去問を解きながら実践力を付ける。		
	期末	一般入試過去問演習 ・国語常識の復習		・各大学の過去問演習を通して出題傾向を把握して、入試対応力を身に付ける。 ・一般教養としての国語常識・文学史をマスターする。		
3 学 期	学年末					

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(選択者)		国語	教養国語	選択	2単位	佐藤祐紀
教科書	特になし		副教材	特になし(適宜プリントを使用する。)		
授業のねらい		・大学入試で求められる国語力の養成を通して本番に向けた実践力を身に付ける。				
学習上の留意点		・総合型選抜や学校推薦型選抜で問われる国語基礎力(語彙力・文章作成力・国語常識等)を繰り返し学習し、定着を図る。				
評価方法		授業内テストを中心として小テストや提出物を踏まえて総合的に評価をする。				
観点別評価		以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。				
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	中間	・語彙の学習と志望動機の書き方 ・文学史・古典常識と文法事項の復習		・指定された字数や内容に従って縦書き・横書きにも対応できるようにする。 ・短い作品を鑑賞しながらこれまでに学習した内容を確認する。 ・日本の文学・文化の流れを確認し、特徴を把握する。		
	期末	・グラフ・資料を使った読解力養成 ・小論文①		・近年増えてきている総合問題や小論文などに対応できるよう何が問われているのか要旨をまとめ、読解する力を養成する。 ・過去問題の研究。 ・何が問われているか、どう対応すべきかを学ぶ。		
2 学 期	中間	・小論文② ・面接対策(プレゼンテーション)		・実際の入試に対応する力を養成する。 ・進学後もレポートが書けるようにする。 ・自分の意思を明確に言語化する力を身に付け、相手に伝わることとはどういうものか、理解する。		
	期末	・文学鑑賞		・鷗外・漱石等日本を代表する文学を鑑賞し、教養を深める。 ・作品の背景となる時代や作家の思想に触れる。		
3 学 期	学年末					